

「さき織り」

「さき織り」とは、古布を1.0cm～1.5cmくらいの幅の糸状に裂き、それをよこ糸として使用し織り上げていくものです。不用になった布類（小さいときに着ていたシャツ・ブラウス、古くなったハンカチ・クッションカバーなど）をゴミとして捨てることなく、布として再び甦らせることができます。また、さき織りで再生した布を使って、ペンケース、ウォールポケット、テーブルセンターなど実用品を作り活用します。

3年生は家庭科の授業で「さき織り」を体験し、不用になった布のリサイクルという「資源の有効利用」の大切さを学習しました。

さき織り体験

- 1 講師 糸川先生（外部講師）
- 2 実施形態 家庭科の授業時間に、被服製作と平行して、1人4分ずつはた織りを実施した。
1クラス4時間ずつ「さき織り」の時間をとった。
- 3 実施期間 6月14日（月）、15日（火）、17日（木）、18日（金）
7月8日（木）、9日（金）、12日（月）、13日（火） 合計8日間
（1日につき、2時間の実習を実施）
- 4 製作活動
 - (1)布を引き裂く作業（写真）
 - (2)古糸で糸玉づくり（写真） 「板ひ」に古糸を巻く
 - (3)はた織り機で布を織る（写真）
 - ア はた織りには既にたて糸が通しており、その間に「板ひ」に巻き付けた古糸を通す。
 - イ 踏み板を踏み換えて「おさ」でトントンと押さえる。
 - ウ この作業を繰り返す。
 - (4)織り上げた布を個々に切り離し、小物入れを製作
- 5 感想
はた織りはとても楽しく、貴重な体験ができた。
作品をうまく作ることができた。普段の生活で使用したい。



写真



写真



写真